

「少年」と「子犬」「ハチ」がどうなった：物語の時制と態の分析

総合政策学部3年 遠藤 忍 (s07154se/70701546)

1. はじめに

スロービンの実験で用いられていた2枚の絵本の挿絵。言語が違うと、この挿絵で起こっていることを説明するときに、さまざまな部分で違いが見られる、という結果が出た。この実験では、英語、スペイン語、ヘブライ語、ドイツ語がその対象となっていたが、日本語ではいったいどんなことが分かるのだろうか。そして日本人は、平均的にどのような傾向で物語を記述すると言えるのだろうか。

このペーパーでは、霜崎教授が提供したデータを、「少年」がどうなったか、「子犬」「ハチ」がそれぞれどうしたか、に着目をして分析するものである。

2. 分析の方法

データは、30人分のデータ（ワープロ打ち/以前のものか）と、今期授業履修者のうち8人分のデータを利用した。データ文の執筆者(以下、被験者と呼ぶ)は、すべて日本語でデータ文を書いている。

データは以下の二種類に分けて分類・分析した。

1. 動作主体が少年である「転落」に関わることばをデータから抜き出し、そのことばが動詞を含む場合に、「現在」「過去」「完了」のうちどの要素で書かれているかを分類していった。(たとえば「落ちてしまった」なら完了、「落ちた」は過去、などのように分類した。なお、「落ちて、」など文途切れていない場合は、文全体を通じて要素を確定した)
2. 主語が「子犬」または「ハチ」である動作のことばをデータから抜き出し、その主語が「子犬」「ハチ」のどちらかを分類した。次に、該当する動作ことばの時制と態に注目し、「能動現在」「受動現在」「能動過去」「受動過去」の4種類に分けて分類した。(たとえば「追いかけられた」の場合、主語は子犬で時制と態は受動過去になる。一方「追いかけた」の場合、主語はハチで時制と態は能動過去になる)

以上のデータ分類をもとに、それぞれの分類が全体に対してどれほどの割合になるかを算出した。

3. 「少年」の「転落」はいつ起きたのか

データ整理/分析

まずは、「少年」の「転落」について書かれたものを分析しよう。Fig.3-1の表が、「落ちた」「転落してしまった」など「転落」に関わることばの出現率である。対象とした文章は38人分であったが、そのうち「転落」に関することばは33データ集まった。

「現在」に分類したものには、「落ちる」「転げ落ちます」があった。どちらも今落ちている、あるいはこれから落ちることを表現するものである。「過去」に分類したものはほとんどは、「落ちた」であった。「落ち、」というように文章が続く形で書かれている場合が多かったが、その後にある動詞要素が過去の形を示していたと判断できた。「完了」と分類したものは、そのすべてに「～しまった」ということばがついていた。なお、不明のものは、名詞形で書かれており、時制判断がつかなかった。

| | 現在 | 過去 | 完了 | 不明 |
|----|-------|--------|--------|-------|
| 個数 | 3 | 8 | 19 | 3 |
| 割合 | 9.09% | 21.21% | 60.61% | 9.09% |

データの考察

さて、上のデータでは「～しまった」ということばを用いた「完了」が半数を越えており、「過去」の意味を表すものをあわせて8割を越える結果となった。このことから、被験者のほとんどが、1枚目の絵から2枚目の絵にかけて発生した少年の「転落」を、『過去に発生したもの、行為が終了したもの』と捉えていることが分かる。

では、なぜ半数以上の被験者が「～しまった」ということばを用いて絵を説明しているのだろうか。筆者はこのことについて、「～しまった」ということばがあたえる印象のうち2つの側面から説明がつく、と考えている。

一つ目の側面は、『動作が既に完了している』という印象である。

「転落」=落下運動には、空間的に上にある落下開始点と、空間的に下である着地点が存在する。「落ちた」「落ちていた」「落ちてしまった」など過去や完了の形が使われる場合、執筆者/発話者の視点では、物体や人物はすでに着地点に到達していると捉えられる。落下が始まる前の状態を知った上で着地点に到着した状況を見た場合に、過去や完了の形が使われるのだ。特に「～しまった」は一連の落下運動が終了して着地点に至ったという印象を与える表現で、通常使用される場合には「すでに」ということばと用いられることが多いのではないだろうか。

2枚目の絵を見る限り、少年の背中はずでに地面に接している。一方の1枚目では、少年はまだ木の上に登っている。この2枚の絵を順番に見れば、少年が落下開始点から着地点へと転落したという事実を見ることが出来る。そして、被験者の大半は、2枚目で発生した事柄について記述をしていることが考えられる。2枚目の絵に視点を置くと、少年は既に着地点に達していることが強く印象づけられるため、「～しまった」という表現が6割になったのだろう。

二つ目の側面は、『動作・結果が良くないことである』という印象である。

「皿を割った」と「皿を割ってしまった」の二つでは、後者の方がより発話者／執筆者の後悔や反省を伺うことができるのではないだろうか。「～してしまった」が使われる場合、動作自体は既に完了しており、また多くの場合、動作それ自体／動作が導いた結果は良くないもの・悪いものと捉えられる。

2枚目の絵で少年は木から背中から転落しているが、転落という行為そのものは故意に行われる物ではなく、偶発的に発生する危険な行為である。落ちれば痛いし、けがをするかもしれない。その意味で、転落という行動／結果は、被験者にとって「かわいそう」や「残念」など、悪いものとして捉えられていたと言える。

以上の二つの側面から、被験者の半数以上が「～しまった」という表現を使ったのだと予測できる。一般化は到底不可能であるとしても、半数以上の日本語話者（第一言語として）は、2枚の絵を見た場合は「完了」「過去」の表現を用いるのではないかと予想することは可能である。

4. 「ハチ」が追いかけたのか、「子犬」が追いかけられたのか

データ整理／分析

次に、『追う／追いかける』の部分についての分析である。この場面での登場キャラクターは「ハチ」の大群と「子犬」である。2枚目の絵では、ハチは子犬を追いかけて、子犬はハチに追いかける。

データの整理にあたっては、まず38人分のデータから「追う」「追いかける」に態当することばを46個抜き出した。そしてそれぞれを「能動現在」「能動過去」「受動現在」「受動過去」の4種類に分類した。その結果がFig.4-1の表に示した通りである。また、データには「子犬」「ハチ」の2種のキャラクターがいるため、データでの分類をFig.4-1に示した。

| | 子犬 | ハチ | 能動現在 | 能動過去 | 受動現在 | 受動過去 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 個数 | 35 | 11 | 10 | 15 | 11 | 10 |
| 割合 | 74.47% | 23.40% | 23.40% | 31.91% | 23.40% | 21.28% |

さて、ここでいう「能動」とは「～する」ということばの形をとっており、大半は「ハチが子犬を追いかける」場合が想定される。一方の「受動」は「～される」という形であり、「子犬がハチに追いかける」場合が想定される。以上のことから、上記の4分類をそのことばの主語から「子犬」「ハチ」に更に分類した。その結果がFig.4-2(子犬データ)とFig.4-3(ハチデータ)である。

| | 能動現在 | 能動過去 | 受動現在 | 受動過去 |
|----|--------|--------|--------|--------|
| 個数 | 4 | 10 | 11 | 10 |
| 割合 | 11.43% | 28.57% | 31.43% | 28.57% |

| | 能動現在 | 能動過去 | 受動現在 | 受動過去 |
|----|--------|--------|------|------|
| 個数 | 6 | 5 | 0 | 0 |
| 割合 | 54.55% | 45.45% | 0% | 0% |

データの考察

データの分類において、「能動」「受動」の概念を用いた理由は、筆者のなかで「『ハチは子犬を追いかけて、子犬はハチに追いかける』と記述するだろう」という仮定があったからである。つまり、主語がハチである文では能動態が、主語が子犬である文では受動態が用いられるという予想があった。また、前章の少年の転落から考えて、完了または過去の形で書かれるのでは、という予想があった。

しかし、全体を集計したFig.4-1のデータを見ると、極端に多い・極端に少ない分類項目はなかった。もちろん、子犬・ハチで分類をしていないということはあるものの、「現在」と「過去」がほぼ半数で出現している。筆者の予想では、過去の事柄として捉える被験者が多いと考えていたが、そうではなかった。

では、なぜ現在形が出現したのだろうか。「現在」に分類されたデータを見ると、「～している」(能動)・「～られている」(受動)という形で書かれているものが大半であった。このように記述した被験者は、子犬およびハチの動きを現在進行中の動作として捉えているようである。確かに絵を見ると、既に落下の着地点に達して落下運動を完了させた少年と異なり、子犬とハチの動きは到達点に達していない。現に子犬の足は地面に接しておらず、今にも走り出しそうな印象を与える。「目の前で起こっていることを記述するときに現在形を用いる」と定義づけるならば、少年の転落が過去・完了で語られ、子犬・ハチの追いかけてこが現在で記述されるのは納得である。

しかしこのままでは、もう半数の「過去」で語る場合をまったく無視してしまう。ではなぜ「過去」でも語るができるのだろうか。「過去」に分類されたデータを見ると、大半は「走っていった」「追いかけられた」というように、行為全体が既に終了していると捉えているものが多い。おそらく「過去」で捉えた被験者は、あくまで絵に描いてあることであって、面前の動作とは捉えていないと考えられる。被験者自身が絵を見て文を書いている『今』の視点に立ったときに、絵に描かれている行為を「過去」の行為と捉えるのではないだろうか。また少数ではあるが、「走っていった」と

いう表現は、子犬・ハチが目の前を通り過ぎて視界から消えたという印象を与え、「逃げ出した」という表現は、逃げのスタートポイントに着目してその出発点をすでに出発したという印象を与える。

まとめると、絵の世界は面前の世界ではないものの、そこに描かれているハチと子犬は現在進行中の動作をしているように見えるので、「現在」と「過去」の双方が出現すると考えることができる。

さて、主語をハチに限定した場合には、現在と過去は半分ずつでありながら、受動の態を示す表現は一切見ることができなかった。ところが、子犬を主語とした場合、能動・受動の双方の表現を見ることができた。これをもう少し詳しく見てみたい。

子犬・能動のデータ14個を見てみると、「走る」ということばは2個、それ以外は全て「逃げる」であった。一方の子犬・受動のデータ21個は全て「追いかける」であった。つまり大半の被験者は、子犬の行動はハチの行動の影響を受けている、という想定をもちながら記述をしていると考えることができる。「(ハチから)逃げる」という場合には子犬に、「(ハチに)追いかける」という場合はハチに、被験者の注目が置かれているように考えられる。いずれにしても、子犬の行動はハチの行動に呼応しているため、ハチの存在を度外視して状況記述をすることはできない。だから、「逃げる」「追いかける」という表現が用いられることになる。

付け加えると、「逃げる」も「追いかける」も、どこか後ろめたさを持つ表現に聞こえる。1枚目の絵で子犬はハチの巣を覗いてハチに刺激を与えており、その結果子犬はハチの追跡を受ける。つまり、怒りを持っているのはハチの方であり、子犬は仕方なく逃げているのだから、どちらかといえばハチに注目が置かれるのは納得である。

5. 結論

以上の分析から、今回のデータから伺える一般仮説は以下のようにまとめられる。

1. 1枚目の絵と2枚目の絵を比べたときに、2枚目で動作が終了しているか・あるいは進行しているかによって、使用する時制が異なる。
2. 使用される言葉は、単に時間感覚や動作の完了／継続に影響を受けるだけでなく、その動作がどういう意味を持つか(ex. 落ちたのはかわいそう、追いかけるのは悪いことをしたから)にも影響を受けている。そして動作の意味は時制や態に大きな影響を与えている。

もちろん、今回見たデータにはかなりのばらつきがあり、また基準データが少数であるため、統計としての正確性や一般化の可能性はないといえる。しかし、スロービンの言うように、言語によって絵の捉え方・その捉え方を表現することには、日本語らしさがあるのかもしれない。そしてまた、スロービンが主張する、「発話のための思考」の理論も、発話行為にあらわれる捉え方が思考を規定しているという意味で理解ができると思う。

資料 -分析データ一覧

子犬／ハチ・データ

| No | 子犬／ハチ | 主語 | 要素 |
|----|---------------------|----|------|
| 1 | 追いかけてられています | 子犬 | 受動現在 |
| 2 | 追いかけてられています | 子犬 | 受動現在 |
| 3 | 追いかけてられました | 子犬 | 受動過去 |
| 4 | 追いかけてられています | 子犬 | 受動現在 |
| 5 | 追いかけてられて | 子犬 | 受動過去 |
| 6 | 走っていった | 子犬 | 能動過去 |
| 7 | 追いかけてまわされている | 子犬 | 受動現在 |
| 8 | 走っていった | 子犬 | 能動過去 |
| 9 | 逃げ出した | 子犬 | 能動過去 |
| 10 | 追いかけてられた | 子犬 | 受動過去 |
| 11 | 追いかけてられている | 子犬 | 受動現在 |
| 12 | 追いかけてまわされて、ひどい目に遭った | 子犬 | 受動過去 |
| 13 | 追いかけてられて | 子犬 | 受動過去 |
| 14 | 逃げました | 子犬 | 能動過去 |
| 15 | 追いかけている | ハチ | 能動現在 |
| 16 | 追われながら | 子犬 | 受動過去 |
| 17 | 逃げていきました | 子犬 | 能動過去 |
| 18 | 追いかけている | ハチ | 能動現在 |
| 19 | 追いかけてられ | 子犬 | 受動現在 |
| 20 | 追いかけて | ハチ | 能動現在 |
| 21 | 逃走した | 子犬 | 能動過去 |
| 22 | 襲い | ハチ | 能動過去 |
| 23 | 逃げる | 子犬 | 能動過去 |
| 24 | 攻撃を仕掛けようとしている | ハチ | 能動現在 |
| 25 | 逃げる | 子犬 | 能動現在 |
| 26 | 追いかけてられる | 子犬 | 受動現在 |
| 27 | 追いかけていってしまいました | ハチ | 能動過去 |
| 28 | 犬は逃げてっちゃった | 子犬 | 能動過去 |
| 29 | 追いまわされる | 子犬 | 受動過去 |
| 30 | 追っかけて | ハチ | 能動現在 |
| 31 | 逃げた | 子犬 | 能動過去 |
| 32 | 追いかけてられている | 子犬 | 受動現在 |
| 33 | 追いかけてまわした | ハチ | 能動過去 |
| 34 | 追いかけて回した | ハチ | 能動過去 |
| 35 | 追いかけた | ハチ | 能動過去 |
| 36 | 逃げまわっている | 子犬 | 能動現在 |
| 37 | 追いかけてる | ハチ | 能動現在 |
| 38 | 追いかけてられて | 子犬 | 受動過去 |
| 39 | 逃げって行った | 子犬 | 能動過去 |
| 40 | 追いかけてられて | 子犬 | 受動過去 |
| 41 | 逃げていきます | 子犬 | 能動現在 |
| 42 | 追っかけられている | 子犬 | 受動現在 |
| 43 | 逃げる | 子犬 | 能動現在 |
| 44 | 追われて | 子犬 | 受動現在 |
| 45 | 逃げて | 子犬 | 受動現在 |
| 46 | 追いかけてられた | 子犬 | 受動過去 |

少年データ

| No | 少年 | 要素 |
|----|-----------------|----|
| 1 | 落ちてしまいました | 完了 |
| 2 | 落ちてしまいました | 完了 |
| 3 | 落ちてしまい | 完了 |
| 4 | 転げ落ちてしまいました | 完了 |
| 5 | 落ちた | 過去 |
| 6 | 落ちてしまいました | 完了 |
| 7 | 落ちてしまった | 完了 |
| 8 | 落ちてしまった | 完了 |
| 9 | 落ち | 過去 |
| 10 | 転げ落ちてしまい痛い目にあった | 完了 |
| 11 | 落ち | 過去 |
| 16 | 落ち | 過去 |
| 13 | 落ちてしまいました | 完了 |
| 14 | 落ちてしまった | 完了 |
| 15 | 落ちてしまった | 完了 |
| 18 | 落下 | 過去 |
| 17 | 落ちてしまいました | 完了 |
| 20 | 落ちた | 過去 |
| 19 | 転げ落ちてしまった | 完了 |
| 32 | 落ちてた | 過去 |
| 21 | 転げ落ちます | 現在 |
| 22 | 落ちてしまった | 完了 |
| 23 | 落ちる | 現在 |
| 24 | 落ちる | 現在 |
| 25 | 落ちてしまった | 完了 |
| 26 | 落ちてしまった | 完了 |
| 27 | ころんでしまった | 完了 |
| 28 | 落っこちてしまった | 完了 |
| 29 | 転び | ？ |
| 30 | 落ちてしまった | 完了 |
| 31 | 転落 | ？ |
| 12 | 転落してしまった | 完了 |
| 33 | 落ち | ？ |